

卒業後の私

上田 佳苗 (平成23年3月国文学科卒業)

1. 教師を目指したきっかけ

私が教職という仕事に興味を持ったきっかけは、中学校3年間の担任の先生です。何事にも熱い気持ちを持ち、いつも全力で取り組む先生でした。進路について悩んでいるとき、私に何度も家庭訪問をしてくださり最後まで一緒に悩んでくれました。私の人生初めての選択を後悔していないのは、充実した学校生活を送ることができるようにしてくれた先生のおかげです。

教師という仕事は誰かの人生に深い影響を与えます。3年間という短い期間でも、関わった人のその後の人生に影響を与える存在になりたいと思い、教職課程を履修した日々を懐かしく感じています。

みなさんは、どのような想いで教職への道を歩み始めましたか。



2. 講師経験で感じたこと

別府大学の教職課程を履修し、中学校国語と高校国語の免許を取得することができました。大学卒業後の3月末から地元の中学校で常勤講師として教師を続けてきました。初めは不安な気持ちしかなく、どのように生徒たちと関わればよいのかも分からず、戸惑うことばかりでした。しかし生徒たちの前に立った時から私は先生と呼ばれます。戸惑っている暇はありませんでした。毎日同じような時間が流れていきますが、同じような日は一度もありません。

教師という道を歩み始めて7年という月日が経ちますが、これまで関わってきた生徒たちの人生に深い影響を与えられたかどうかは分かりません。しかし慌ただしく過ぎていく毎日に追われながら、生徒と共に悩んだり笑ったり、涙したりしながら成長して充実した日々を送ることができています。

3. 大切にしていること

生徒たちの成長を感じ、教師としてのやりがいを実感すると同時に、目の前の生徒たちの人生に影響を与える存在として関わっていくことの責任を強く感じました。私が教師として教育現場で働く上で大切にしていることが2つあります。

1つ目は「生徒と真剣に向き合うこと」です。これは私の恩師である中学校時代の担任の先生から学んだことです。どんな時もどんなことにも教師が真剣になることで生徒たちの気持ちが変わってきます。生徒たちは同じ教室にいても全員が同じ気持ちでは限りません。教師と生徒という関係だからこそ、本音で語り合わなければ分からないことばかりです。私はどんな時もどんなことも生徒と真剣に取り組むなかで、想いは必ず伝わっていると思います。

2つ目は「諦めない気持ちを持つこと」です。これは生徒に対してだけでなく、自分自身に対してもいえることです。私は教師になるという夢を諦めませんでした。何度も何度も採用試験を受け、不合格という結果を見るたびに心が折れていました。しかし、学校で生徒たちが勉強や部活動などに全力で取り組み、諦めずに頑張っている姿を見て励まされていました。生徒たちと一緒に頑張っていけるのは教師の特権だと思います。

4. 教職課程履修のみなさんへ

念願の福岡県教員採用選考試験に合格し、平成30年4月から中学校国語科の教諭として採用される予定です。生徒たちの人生に影響を与えられるような教員を目指して、目の前の生徒たちと全力で向き合っていく覚悟を持ちました。さまざまな想いや決意を持って教職への道を歩むみなさんのご活躍を願っています。